

JAO 講演会 2015 年 9 月 27 日

演者：岩田健男 デンタルヘルスアソシエート代表、東京都開業

演題：従来補綴か、インプラント治療か？長期経過とエビデンスに基づく
臨床的判定基準について

抄録：

従来の補綴法は、残存歯の保存と歯列の維持により、長期にわたって咀嚼機能を回復するのに大きな成果を残してきたし、部分欠損症例の患者に多大な恩恵をもたらし、天然歯による咬合支持と審美性の維持を可能にしてきた。しかし、この補綴法は長期メンテナンス中に、二次う蝕と根面う蝕、根尖病巣、歯根破折、あるいは歯周疾患の再発などの臨床的に重大な失敗に直面することになり、長期的に観ると、欠損修復法として限界を呈することが明らかになってきた。

インプラント治療は従来の補綴法と肩を並べる欠損補綴法のオプションとして定着してきた。ただし、インプラント補綴も万能ではない。1990 年代になると、この補綴法の課題（失敗原因）が感染（Infection）と負担過重による外傷（Trauma）であることが多くの研究報告によって喝破され、とくにインプラント周囲組織の感染阻止、およびバイオメカニクスと咬合の重要性が認識されることになった。

本講演では、過去 25 年の従来補綴とインプラント補綴の経過を総括的に見直す。そして、いずれの欠損補綴法が適切かを選択するためのエビデンスに基づく臨床的判定基準について解説したい。